

日本地理教科書

ツ同ボロカン同シユマン
 (銀)渡島國松前赤神同國一ノ渡、膽振國勇樂郡後志古宇ノ泊川同藻岩
 同古平ノ稻倉石同ルベンベツ同余市郡白井川、シカリ別、ヌツチ、湯内、同
 小樽郡アサリ、
 (銅)膽振國幌別川上、後志國古宇ノ藻岩、柵内、同古平稻倉石、同余市ヲチ
 川、同忍路ノシクツシ、
 (砂鐵)渡島國コブ井川、同濁川、同落部、同野田、同追川、膽振山越郡ユフラッ
 プ、同黒岩、
 (鉛)渡島國赤神、同一ノ渡、膽振山越ユフラッ、同山越二又、同虻田郡ヌ
 ツキ別、同室蘭ノキモンベツ、後志國古平余市ノルベシベツ、同郡タネ川、
 同湯内シカリベツ、根室國日梨ノ忠類川、
 (黒鉛、石墨)後志國久遠、日高國三石ノカ、ハボイ、
 (硫黃)渡島國茅部郡惠山、同サイノ川原、同トラノ澤、同龜田郡コブ井、後

北海道

志與尻郡大岩生、同岩内郡岩雄、登天鹽、増毛郡岩尾、十勝國ケンルニ山、釧
 路、雄阿寒、同アトサノボリ、北見國斜里郡知床、千島フレト子、ハ島外二島
 同ブラットナエルゴエフ島、同得撫、同藪取モヨロ、同アトサノボリ、同ル
 ベツ、同ヘータルベツ、同國後ラウス、トカリムイ、シマノボリ、イチビシナ
 イ、ポントウ、
 (石膏)膽振國有珠谷、藤、後志國雷電、國後岩老、
 (石灰)渡島龜田郡尻岸内、同石崎、同湯ノ澤、同松前郡原口川、上磯中ノガ
 ロ澤、膽振山越城ノ二又、後志島牧郡永豊、膽振虻田郡禮文、華、日高國三石
 郡ツミウシ、同元浦川上、
 (陶土)渡島國野田部
 (石炭)膽振虻田ヌツキ別、後志岩内茅沼、石狩樺戸總津川、同ホロナイ、イ
 ク、シニベツ、ビハイ、下ヲタシナイ、上ヲタシナイ、同空知、アシ別、天鹽國留
 萌、同ホロニタキベツ上流、同小平、藥川中間、同羽幌川、北見宗谷、コエトヘ

上流、オニシハツ上流、日高サルノボン別、長知内、ヌカピラ、同新冠ノ波惠、
静内ノマクンベツ、十勝國トコモロ、釧路國白糠、チンベツ、同昆森、オソツ
ナイ、春取、同厚岸郡ベカンベウシ、石狩國夕張ノアノロ、シナルカ別、釧路
阿寒郡吾辛、

(褐炭)渡島檜山郡ツラツラ澤、苦澤、木ノ子、奥尻島小瀧内、茶津、久遠郡小
川、大檜越、天鹽エヒリマツプ二ヶ所、十勝ノ河西、同河東、同中川ノ年別、同
大津川中間、

(石油)渡島上磯郡泉澤、同矢越岬、茅部、釧木、同茅部郡濁川、膽振山越内、石
狩國當別、シレンベツ、望來川、同厚田郡コタン、同室知ナイベツ、同樺戸郡ト
ツプ、同郡及雨龍留萌境、天鹽、苫前ベンケナレハチマイ、

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、本道ニ於ケル礦産ノ收穫左ノ如シ、銅(後
志)八八五貫、硫黃(渡島)二八、〇〇〇貫、北見(二)一、五〇五貫、膽振(四)〇九、六一
二貫、釧路(二)七、二三、四三四貫、千島(五)四一、七五二貫、石炭(後志)五、三七、六〇

日本地理教科書

北

○貫(石狩)五五九、六一七貫、釧路(四)〇四、八九三貫ナリ、右ハ皆民行鑛山ノ
收穫ニ係ルモノニシテ、官行鑛山ノ收穫ニハ石炭(幌内)二千五百三十
九萬九千二百三十五貫アリ、而シテ落葉松、蠟木、厚朴、楠、楓、樺、槲、松、檜、椿、普
提樹、辛夷、ホツブス、ナヒヨウ木、桑皮、チンコ、斑竹、海藻、鮭、鱒、鯉、鱈、鱈、鮫、鮑、海
扇、牡蠣、海膽、海鼠、鷹、鷲、臘、虎、臘、臍、水豹、馬、熊、鹿等モ亦本道ニ較著ノ物産
ナリトス

海

北海道本地ノ面積ハ凡九百三十九萬八千八百八十八町八反歩アリ、就中
田千六百四十八町二反三畝畑三萬六百四十三反町一反八畝宅地二千
五百三十九町八反四畝、牧場三千三百五十九反町二反五畝、海産干場二
千五十二町二反歩ナリ、然レハ則チ田畑ノ合計反別ハ總面積ノ凡二百
八十七分ノ一、牧場ハ其二千八百分ノ一ニ過キス、是明治廿一年ノ調査
ナリ、廿二年ノ調査ニ依レハ、粳米位附反別千七百七十二町三反歩、糯米
作附反別二百十五町三反歩、粳米收穫八千五百六十三石、糯米收穫七百

道

日 本 地 理 教 科 書

十七石即チ粳米ハ一反ニ四斗八舛糲米ハ三斗三舛ノ收穫アリ、麥類ノ作附反別ハ大麥ニ千三百九十二町四反步、裸麥ニ七百二十九町三反步、小麥ニ八百五十九町七反步、其收穫ハ大麥ニ壹萬三千四百三十五石、裸麥ニ五千七百三十五石、小麥ニ六千四百九十四石アリ、又廿年ノ統計ヲ視ルニ大麻一萬五千四百廿七貫、苧麻九千九十三貫、藍葉五萬九千百七十八貫、甘菜百七萬八千六百五十三貫ノ收穫アリ、製茶及ヒ養蠶ノ兩業ハ未タ觀ルヘキノ點ニ達セス、

明治廿一年ノ調査ニ依レハ牛千三百五十五頭、馬四萬五千四百二頭アリ、之ヲ同年ノ北海道人口ニ比スルニ、本道ノ住民ハ百人ニ付馬匹十七頭餘ヲ有スルノ割合ナリトス、

北海道ニハ未タ較著ノ工業ナシ、彼ノ製糖、製麻若シハ昆布精製業ノ如キ皆一個ノ工業トシテ觀ルニ足ルヘシト雖モ、其創設發擴ニ至リテハ專ラ人爲的作用ニ職由ス、以是余ハ北海道ニ未タ較著ノ工業ナシト

工

四百

北 海 道

斷言スルニ躊躇セサルナリ、
本道已ニ較著ノ工業ナシ、然レハ則チ工業的物産ノ供給ハ之ヲ他ニ仰カサルヲ得ス、明治廿二年函館、福山、江差、壽都、小樽、古平、岩内、増毛、根室及ヒ其他ノ諸港ニ依リ、北海道カ輸出入セシ重要ノ物品並ニ其原價ヲ記シ商業ノ一斑ヲ示サントス、

輸出品	
鯡絞粕	三、四九一、九〇五
鯡粕	七三七四、一〇
鮭	六七八、六〇二
鯡	五六〇、五三五
昆布	四八二、三二三
錫	二六、四、二四九
鯨鯨	一一〇、七、三三六

商

四百一

日本地理教科書

鮪絞粕	一七六、三七七
鯪白子	一三二、七六〇
煎海鼠	一一八、五四九
干鮑	一一五、〇二三
鱈	九九、七五五
鱒	八三、七七三
魚類絞粕	六〇、三三五
鱒	四七、一〇〇
魚油	四二、七四九
鮭筋子	二一、〇〇一
硫黃	二三、〇〇四
石炭	一五〇、一〇四
毛皮類	六〇、二三二

北海道

織物及衣類(廿一年)

大小豆	五七、二五〇
油及蠟燭類	三九、五六八
砂糖	三三、〇六九
氷	三四、一三七
輸入品	二四、八三三
米	三〇、一三三、三三三
織物及衣類	一三七、二六三四
酒	四七、一二九〇
蕤及繩類	二七、九三三八
小間物類	二六、八九六二
油及蠟燭	二五、七七〇七
砂糖	二一、二二一七

日 本 地 理 教 科 書

烟草	二〇三、八九三
木材及板類	一八八、〇〇二
紙類	一七九、三九三
鹽	一六九、一七〇
網及網糸類	一五九、七二三
醬油	一五六、三六八
味噌	一三八、〇一七
蔬菜及果實	九八、一三六
銅鐵及金物類	九五、九八五
大小豆	七九、九五四
船具類	七八、二九四
藥品	七二、二一九
陶漆器	六二、七五八

商

四百四

北 海 道

茶	六二、五四四
綿糸及麻苧類	五二、〇二〇
書籍(廿一年)	五〇、四二七
履物類(廿一年)	五〇、二二八
蠟類	三二、八五二
粉及麵類	三一、五四四
鷄卵	二六、九一一
鯉節	二〇、四五二
水產物	一九、九二〇
菓子	一四、〇二二
種物類	一三、七二七
雜穀	一二、九一八
牛肉(廿一年)	一七、六二〇

商

四百五

日本地理教科書

北海道ニ國立銀行一(拂込資本二十萬圓)私立銀行一(拂込資本十萬圓)アリ、而シテ明治廿年物貨十萬圓以上ヲ搭載シテ本道ノ諸港ニ出入セシ船舶ヲ調査スルニ、入港ニ漁船三千百六十八艘其噸數八十四萬二千二百二十三、西洋形帆船八百七十艘其噸數七萬五千百七十七、日本形船六千三百九十三艘其石數百四十萬八千七百卅一、出港ニ漁船三千百六十七艘其噸數八十六萬七千五百七十一、西洋形帆船八百六十八艘其噸數七萬五千五百廿六、日本形船六千三百四十四艘其石數百四十三萬六千八百六十二アリ、

渡島國函館ハ我開港場ノ一ナリ、明治廿二年外國貿易ノ況景ヲ視ルニ、總輸出高ハ七十八萬千四百四十六圓五十九錢ニシテ、輸入ハ十一萬七千七百五圓五十九錢ナリ、而シテ輸出入品中ニ重要ノ位置ヲ占メ、且ツ其總價額壹萬以上ニアルモノヲ左ニ列記セン、

輸出品(內國產)

硫黃 二二〇、〇四五、四四
穀物及飲食物類 五三七、一九四、六〇

就中

昆布 四二七、四三四、三三
鯧 四九、四二〇、四三
海參 四六、九〇〇、七三
皮毛甲角類 一五、一九五、二七

就中

毛皮 一三、八九七、四八
輸入品(外國產) 一七、〇九一、五〇
諸機械類 七九、四九四、四二
筒鐵及管鐵

本港ニハ金銀貨幣等ノ巨大ナル輸出入ナシ、故ニ之ヨリ船舶ノ往來ヲ

北海道

示スヘシ、

外國往來船出入表

出 港		入 港	
船 數	噸 數	船 數	噸 數
一七	一〇、四〇三	一	五
一五	九、六五四	二	六三、二二

内國廻漕船出入表

出 港		入 港	
船 數	噸 數	船 數	噸 數
一五	五、八二八	七	五、八六九
一	三、一〇	三	三、五五一

現今北海道ノ富チ論スルモノハ主トシテ其海産ノ廣大夥多ナルチ

日 本 地 理 教 科 書

北 海 道

説カサルハナシ、論者ノ言洵ニ當然ナリトス、之ヲ統計ニ徴スルニ水産
 營業組合四十九アリ、此等ノ組合カ上納セシ税金ハ明治廿一年度ニ二
 十壹萬八千七百七十六圓ニ達セリ、亦以テ海産業ノ盛隆ナルヲ推知ス
 ルニ足ルヘシ、左ニ明治廿一年本道ニ於テ收穫セシ重要ノ海産物ニシ
 テ其價額一萬圓以上ニ達セシモノヲ枚舉スヘシ、

鮭	四、二〇四、八二三 <small>円</small>
鱈	七、六二〇、〇〇八
鱈	三、一六七、四四
鱈	一、五三二、七六
鱈	一、四三三、五二〇
鱈	六、二二三、八一
鱈	四、五六五、五
鱈	四、一二八、二

鳥賊

四一、〇八二
一〇、五二三

而シテ同年ニ於ケル重要海産ノ總收價額ハ無慮五百八十三萬千五百廿五圓ヲ爲シ、搾滓ノ收獲ハ二千四百壹萬五千五百四十五貫ニ達シタリ、
廿年ノ調査ニ依ルニ、北海道ノ漁人ハ總計六萬二千九百七十名ニシテ、四萬二千二百九十九艘ノ漁船ヲ所有セリ、
舊蝦夷ノ地ハ山岳中央ニ厝集メテ交通ノ便自然些少ナルノミナラス、開拓ノ業未タ普及セサルヲ以テ、内地ニ善良ノ道路ナシト雖トモ、沿岸ニハ好路ナキニ非ズ、今明治廿一年ノ調査ヲ視ルニ普通郵便線路六百四十二里餘、鐵道ニ依ルモノ凡五十四哩半アリ、電信線ノ條長ハ四百二十八里餘ニ達ス、他ニ又重要ノ街道數條アリ、其較著ナルヲ舉ケン、渡島國函館ヨリ同國森村ニ到ルモノ凡十一里半、膽振國室蘭ヨリ苫小牧

日本地理教科書

ニ到ルモノ凡三十四里四町、膽振國苫小牧ヨリ幌泉、釧路等ヲ經テ根室國根室ニ到ルモノ百三十七里十四町餘、根室國根室ヨリ標津、斜里、常呂、紋別等ヲ經テ北見國宗谷ニ到ルモノ凡百三十八里、宗谷ヨリ天鹽、苫前等ヲ經テ天鹽國増毛ニ到ルモノ凡五十二里廿町、天鹽ヨリ古潭、石狩等ヲ經テ石狩國札幌ニ到ルモノ凡廿九里七町、札幌ヨリ後志國小樽港へ鐵道二十哩八鎮八十四鎮、小樽ヨリ岩内、壽都、大樽等ヲ經テ久遠ニ到ルモノ凡四十八里廿一町、久遠ヨリ音部、江差、福山、木古内等ヲ經テ函館ニ到ルモノ凡五十二里廿五町ナリ、
海路ノ主要ナルハ左ノ如シ、函館ヨリ根室ニ到ルモノ二百九十五哩、同小樽ニ到ルモノ二百廿一哩、小樽ヨリ増毛ニ到ルモノ四十七哩、増毛ヨリ焼尻島、利尻島、禮文島等ヲ經テ北見國稚内ニ到ルモノ百廿四哩、根室ヨリ國後島、泊村ヲ經テ北見國網走ニ到ルモノ七十哩、網走ヨリ紋別ニ到ルモノ五十哩、根室ヨリ擇捉島、沙那ニ到ルモノ百七十七哩、沙那ヨ

北海道

ニ到ルモノ凡三十四里四町、膽振國苫小牧ヨリ幌泉、釧路等ヲ經テ根室國根室ニ到ルモノ百三十七里十四町餘、根室國根室ヨリ標津、斜里、常呂、紋別等ヲ經テ北見國宗谷ニ到ルモノ凡百三十八里、宗谷ヨリ天鹽、苫前等ヲ經テ天鹽國増毛ニ到ルモノ凡五十二里廿町、天鹽ヨリ古潭、石狩等ヲ經テ石狩國札幌ニ到ルモノ凡廿九里七町、札幌ヨリ後志國小樽港へ鐵道二十哩八鎮八十四鎮、小樽ヨリ岩内、壽都、大樽等ヲ經テ久遠ニ到ルモノ凡四十八里廿一町、久遠ヨリ音部、江差、福山、木古内等ヲ經テ函館ニ到ルモノ凡五十二里廿五町ナリ、
海路ノ主要ナルハ左ノ如シ、函館ヨリ根室ニ到ルモノ二百九十五哩、同小樽ニ到ルモノ二百廿一哩、小樽ヨリ増毛ニ到ルモノ四十七哩、増毛ヨリ焼尻島、利尻島、禮文島等ヲ經テ北見國稚内ニ到ルモノ百廿四哩、根室ヨリ國後島、泊村ヲ經テ北見國網走ニ到ルモノ七十哩、網走ヨリ紋別ニ到ルモノ五十哩、根室ヨリ擇捉島、沙那ニ到ルモノ百七十七哩、沙那ヨ

リ得撫島ニ到ルモノ百四十三哩、而シテ函館及ヒ横濱間ノ航路ハ五百五十餘哩ナリ、之ヨリ著名ノ港灣ヲ述ヘン、

函館ハ渡島國龜田郡ニアリ、東西十六町、南北廿四町、深四俣乃至七俣、西南ニ向フ、福山ハ同國津輕郡ニアリ、東西十四町、南北十町、深七俣、南ニ向フ、江差ハ同國檜山郡ニアリ、東西六町、南北十町、深六俣、北ニ向フ、

壽都ハ後志國壽都郡ニアリ、東西三町、南北五町、深七俣、北ニ向フ、小樽ハ同國小樽郡ニアリ、東西卅二町、南北十町、深八俣、東ニ向フ、古平ハ同國古平郡ニアリ、東西十五町、餘南北十二町半、深九俣、北ニ向フ、

石狩ハ石狩國石狩郡ニアリ、東西一里十町、南北一里、深一俣三尺餘、西ニ向フ、増毛ハ天鹽國増毛郡ニアリ、又幌泊ト云フ、東西凡十町、南北八町、深六俣、北ニ向フ、

宗谷ハ北見國宗谷郡ニアリ、東西三町、南北九町、深四俣乃至五俣、四尺

日本地理教科書

北海道

西ニ向フ、網走ハ同國網走郡ニアリ、東西五町、南北凡十一町、深五俣乃至十二俣、東北ニ向フ、押泊ハ同國利尻郡ニアリ、濶十八町、長廿町、深四俣乃至十俣、東ニ向フ、

有珠ハ膽振國有珠郡ニアリ、東西三町、南北五町、深十八俣乃至三十俣、西南ニ向フ、室蘭ハ同國室蘭郡ニアリ、東西一里十五町、南北廿二町、深九十俣、西ニ向フ、

幌泉ハ日高國幌泉郡ニアリ、東西二町、南北之ニ同シ、深凡四俣、西ニ向フ、釧路ハ釧路國釧路郡ニアリ、濶五町、深八俣、西ニ向フ、厚岸、同國厚岸郡ニアリ、東西三十二町、南北二里十二町、深四俣乃至十二俣、南ニ向フ、

仙風路港ハ同國内ニアリ、深五俣、東南ニ向フ、濱中ハ同郡ニアリ、東西卅四町、南北一里十五町、深未詳、東ニ向フ、

根室ハ根室國根室郡ニアリ、東西六町、南北七町、深四俣、北ニ向フ、

泊、千島國後郡ノ西南隅ニアリ、西南ニ向フ、深未詳、振別、ハ振別郡ニアリ、深凡十五俣、西ニ向フ、

明治廿一年北海道ニ屬セシ船舶ニハ漁船二十九艘、其噸數二千六百七十五、帆船七十三艘、其噸數四千五百七十八、日本形船二百七十一艘、其石數五萬三千四百二アリ、

蝦夷ノ土蕃ヲ「アイノ」ト稱ス、被髮丈身ノ蠻族ニシテ、其言語全ク我日本語ト異ナリ、丈高カラスト雖モ、骨格容貌ハ頗ル歐洲人ニ類ス、曾テ文字ヲ知ラス、木皮ヲ以テ衣ヲ製シ、魚獸ヲ以テ食ニ充テ、専ラ漁獵ニ從事シ、好テ矮屋ニ屏住シ、酋長ノ擅制ヲ甘受セリ、而シテ、宗教ノ觀念ノ如キハ、更ニ之ヲシト稱シテ可ナリ、

蝦夷ノ我版圖ニ歸セシヨリ、日本人ノ此ニ移住スル者日々ニ多キヲ加フ、之ニ反シテ土蕃ノ數ハ次第ニ減少スルカ如シ、明治廿二年ノ調査ニ由ルニ其數實ニ一萬六千七百卅五ナリ、而シテ其配致ハ左ノ如シ、

日本地理教科書

渡島 二〇八 後志 七〇九

石狩 九四〇 天鹽 二八七

北見 一〇、三四 膽振 三、五二一

日高 五、八〇六 十勝 一、五二八

釧路 一、六一五 根室 四四八

千島 五三九

右表ニ依レハ土蕃ノ數ハ日高膽振ノ兩國ニ多クシテ、渡島ニ僅少ナルヤ一目ニシテ瞭然タリ、

北海道

明治廿一年ノ調査ニ依ルニ、北海道ノ總人口ハ廿五萬四千八百五ニシテ、之ヲ諸州ニ分配シ、又之ヲ州ノ面積ニ比スレハ左ノ如シ、

國名	人口	面積	一方里ノ人口
渡島	一二三、二九〇	三、一、〇八	凡三九六
後志	五二、八五二	三〇、九、二二	凡一七一

日本地理教科書

石狩	三三、一三〇	八二、三六三	凡四〇
天鹽	四、七四五	五六、六六五	凡七
北見	二、八三二	七五、三三五	凡四
膽振	一三、六三四	四五、六三三	凡二九
日高	一〇、九四三	三九、一四一	凡二八
十勝	一、九九一	六六、〇三九	凡三
釧路	四、六九八	五七、二四九	凡八
根室	六、〇二〇	二六、四五八	凡二三
千島	六七〇	九八、六二三	凡〇七
合計	二五四、八〇五	六、〇九五、三六六	凡四二

右表ニ依リテ觀レハ、北海道ノ諸州中渡島及ヒ後志ヲ除クノ外他ハ皆殆ト無人郷ノ觀アリ、然レトモ本道ノ人口モ亦年々増加スルモノナリ、即チ明治五年ニハ總凡人口十二萬九千九百七、同九年ニハ十五萬二千三

北海道

百八十四、同二十年ニハ二十三萬七千七百廿九ナリシカ、廿一年ニハ廿五萬四千八百五ニ達セリ、然レハ則チ明治五年以來ノ人口ノ増加ハ實ニ十三萬二千八百九十八ニシテ是當時ノ人口ノ一倍餘ニ該當ス、北海道ノ土蕃ニハ原來宗教ノ觀念ナシ、然レトモ今日コアリテハ眞曹洞、淨土ノ諸宗此地ニ渡來シテ普ク布教ニ從事ス、故ニ此地ニ於テ眞宗ハ五十五、曹洞宗ハ四十九、淨土ハ四十八餘ノ寺院ヲ有スルニ至レリ、神道ノ勢力ハ極メテ微々タリ、地ハ邊陲ニアリ、面積六千方里ニ餘リテ人口未タ卅萬ニ充タサルノ北海道ナリト雖モ己ニ小中學師範學校及ヒ農學校等ノ設ケアルハ之亦明治聖代ノ一美事ト云フヘキカ、明治廿一年本道ニ存在セシ小學ハ三百十二ニシテ、其生徒ハ二萬千四百九十二ニ達セリ、故ニ平均一校ニシテ凡六十九名ノ生徒ヲ有スルノ比例ナリ、中學、師範校、農學校等ハ各一アルノミ、學齡者百ニ對スル修學者ノ比例ハ渡島ニ四十一、後志ニ四

十六、膽振ニ三十八、石狩ニ四十九、天塩ニ五十二、日高ニ二十二、十勝ニ十七、北見ニ十二、釧路ニ四十九、根室ニ八十、千島ニ三十二ナリ、而シテ小學並ニ其生徒ノ員數ノ夥多ナルハ渡島、後志及ヒ石狩トス、

明治廿一年人口一萬以上ヲ有セシ都市ハ函館、札幌、江差、小樽、福山等ナリ、

日本地理教科書

函館ハ渡島國龜田郡ノ南瀕ニアリ、南ハ臥牛山ト相對ス、港内水深フシテ碇泊ニ至便ナリ、市街ハ山腹ヨリ海瀕ニ連ナル、市坊七十餘、戶數一萬六百二、人口五萬二千六百九十三、港ニハ税關、博物館等ノ設ケアリ、開港場ノ一ナルヲ以テ外國人居留地ヲ置ク、平均温四十七度三分、暑極ニハ九十度ニ垂々トシ極寒ニハ零度以下ニ降ルイアリ、

明治廿二年函館ヨリ輸出セシ物品ノ原價ハ二百廿六萬四千八百六十八圓、輸入物品ノ原價ハ五百五萬二千五百十八圓ナリ、外國貿易ノ景況ハ商業ノ部ニ就テ看ルヘシ、

北海道

札幌ハ石狩國札幌郡ニアリ、石狩河口ニ沿フテ位ス、之即チ北海道廳ノ在所地ニシテ鐵道東西ニ聯絡シ一方ニハ小樽港ニ到ルヘシ、又一方ニハ幌內ニ到ルヘシ、商業工業共ニ稍盛ナリ、市坊三十餘、戶數三千九百廿八、人口一萬四千三百八十九、平均温四十四度七分八厘、極暑ハ九十度ニ過キ、嚴寒ニハ零以下二度餘ニ達ス、

江差ハ渡島國檜山郡ノ西岸ニアリ、戶數二千八百四十八、人口一萬二千七百十八、明治廿二年本港ヨリ輸出セシ物品原價六十九萬四千六百廿九圓、輸入セシモノ六十萬三千九百九十六圓ナリ、

小樽ハ後志國小樽郡ニアリ、之亦北海道西岸ノ一良港ニシテ、戶數二千三百九十四、人口一萬千九百八十四、港内船舶常ニ輻湊ス、廿二年ノ輸出物品原價ハ百五十二萬七千九百八十九圓、輸入貨物ハ百四十二萬千八百二十二圓ニ達セリ、鐵道札幌ニ通ス、蓋シ小樽港ノ輸出入タルヤ明治十三年以前ニアリテハ殆ト皆無ノ姿ナリシニ拘ハラズ、今日此繁昌アリ、

地ノ利大ニ他ニ優ル所非サレハ何ヲ以テカ克ク此盛旺ヲ來サンヤ、
 福山ハ即チ舊時ノ松前ナリ、渡島國津輕郡ニアリ、正南海ニ面シ、北並
 ニ東面ニ當リテハ連峯之ヲ圍繞ス、戸數二千三百四十一、人口一萬千九
 百七十六アリ、蝦夷最舊ノ都會ナリト雖モ、已ニ極盛ノ時機去リテ漸ク
 衰微ニ赴カントスルカ如シ、明治廿二年ノ輸出品原價三萬六千七百四
 十五圓、輸入品原價九萬三百七十九圓ナリ、
 右ノ外本道ニ較著ノ都市ハ石狩ノ石狩港、根室ノ根室港、釧路ノ室蘭
 港等ナリ、

〔備考〕

海峽。津輕海峽(渡島宗谷峽(北見)ゴヨマイ峽(根室)クノネモイ峽(千島))
 岬角。尾花岬、辨天岬、惠山、白神岬、渡島、辨慶崎、神威岬、兜岬、幌部岬、魚福
 崎、本泊岬、後志、幌威岬、天鹽、濃沙布崎、宗谷岬、能取崎、床崎、北見、磯岐岬、強
 韌岬、膽振、襟裳崎、日高、網走、布岬、野付岬、根室、計羅、武威岬、濃津江、登岬、阿

吐江也岬、濃津江、登岬、千島

屬島。大島、小島、渡島、寶島、奥尻島、周圍十三里餘、(後志)燒島、天瓜島、天鹽、
 利尻島、周圍殆ト十里、禮文島、周圍凡十三里、(北見)大黒島、霧多布島、嶮暮
 歸島、後島、釧路、水晶島、周圍五里半、(醜)丹島、周圍凡廿二里、(根室)國後島、(西
 南)ヨリ東北ニ至ル凡卅里、東西廣所八里、周圍凡七十一里、(擇捉)島、(西南
 南)ヨリ東北ニ至ル凡五十里、東西廣所凡十里、周圍九百五十三里、得撫島、
 新知島、捨子古丹島、加亞、遠古丹島、温彌、古丹島、波羅、茂里島、千島

日本地理教科書

中等教育 日本地理教科書下卷終

備考

四三二

明治二十四年九月廿七日印刷
明治二十四年十月三日出版

著者 富士谷孝雄
東京市牛込區東五軒町三十五番地

發行者 柳原新一郎
東京市神田區或神保町一番地

發行者 河出靜一郎
東京市日本橋區本材木町壹丁目二十一番地

印刷者 杉原辨次郎
東京市京橋區元數寄屋町四丁目二番地



發 兌 書 肆

敬業社

東京市神田區英神保町壹番地

成美堂支店

東京市日本橋區本材木町壹丁目廿一番地

敬業社支店

東京市本郷四丁目

成美堂

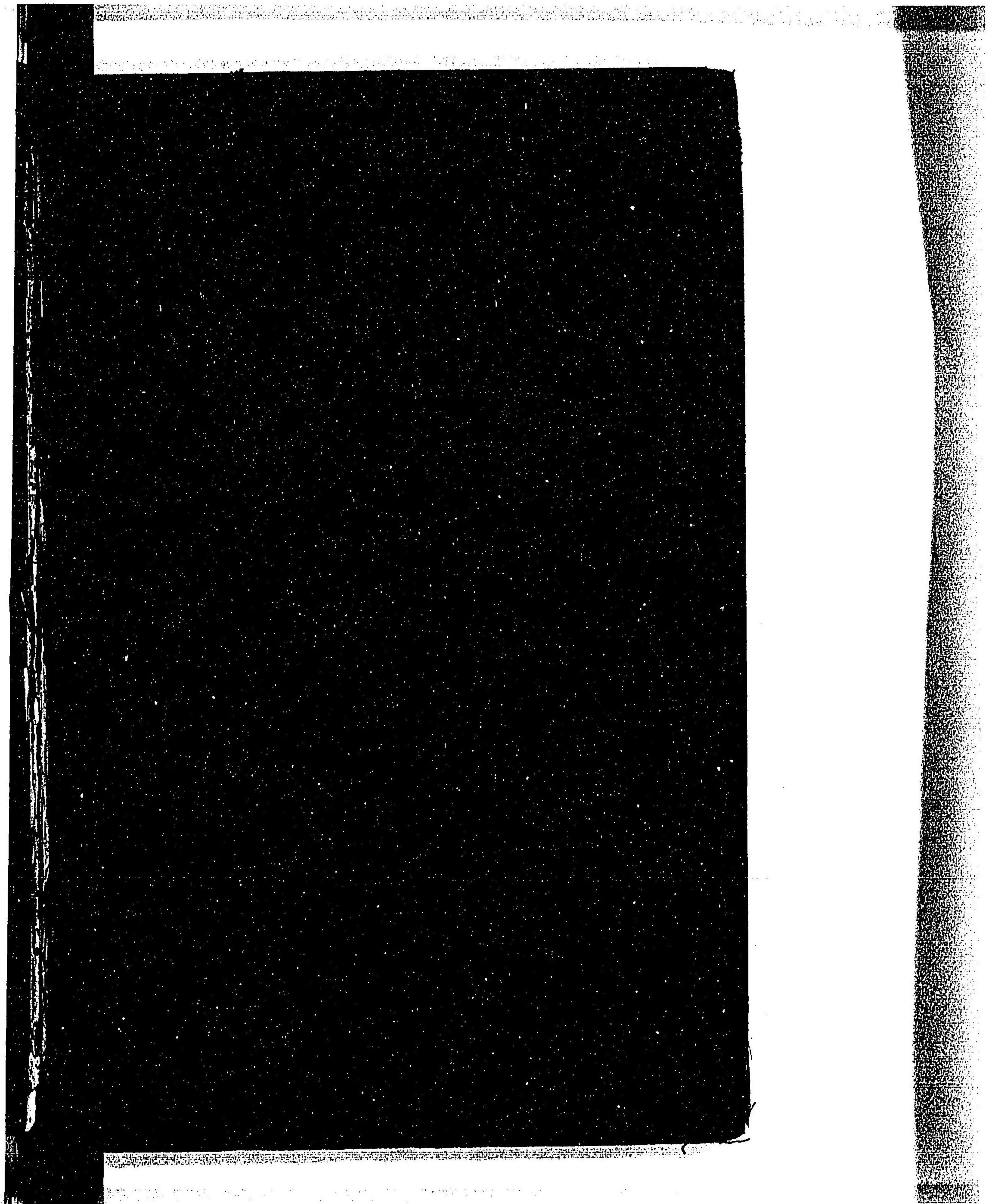
岐阜市米屋町

石井釣三郎

大坂東區備後町四丁目

38

133



38
133

